

黒牧17号ブイ設置予定海域海底地形調査

漁場環境科 浜 田 英 之

1 調査海域

平成11年度沿整事業で中芸沖に設置予定の黒牧17号ブイに関し、図に示す東西約8km、南北約15kmの海域の海底地形調査を実施した。

2 調査方法

水試調査船「土佐海洋丸」(48トン、750馬力)を使用し、平成11年4月27日に測深調査を実施した。測線は東西方向に1マイル(1850m)間隔で設定した。調査船は約12ノットの速力で航走させ、DGPS受信機およびプリンターを使用して1分間隔で測位とその記録を行った。調査中の航跡についてはコースプロッターでも描かせた。

測深儀としては調査船に装備されている28kc魚探(フルノFE-822、出力10KW)を使用した。過去の調査例や水深等から判断して、今回の調査海域の場合音速補正值は+10m以内と考えられ、補正值としては10m未満なので測得水深に対する音速補正は行わなかった。

3 調査結果

東西約8km、南北約15kmの調査海域の大部分は土佐湾中央部沖合に広がる土佐海盆内の北東部に位置し、水深範囲は990m~1070mとなっている。調査海域の北側3分の1を除く海域は海底勾配が150分の1~250分の1とごく平坦で、等深線は概ね北西-南東方向となっている。調査海域内の北側部分には海底谷らしき入り込みが見られ、その中央部では海底勾配が20分の1~30分の1のかかなりの急斜面が見られる。

平成10年4月からは海上保安庁によるDGPSの運用が開始されており、黒牧ブイの設置工事の際もきわめて正確な海上位置決定が可能であると思われる。今回の調査海域の大部分の海域においては、例えば300mの設置位置のずれに対する水深の増減は約1~2m程度以内なので、設置工事の際のアンカー切り離しのタイミング決定もかなり楽に行えるものと思われる。

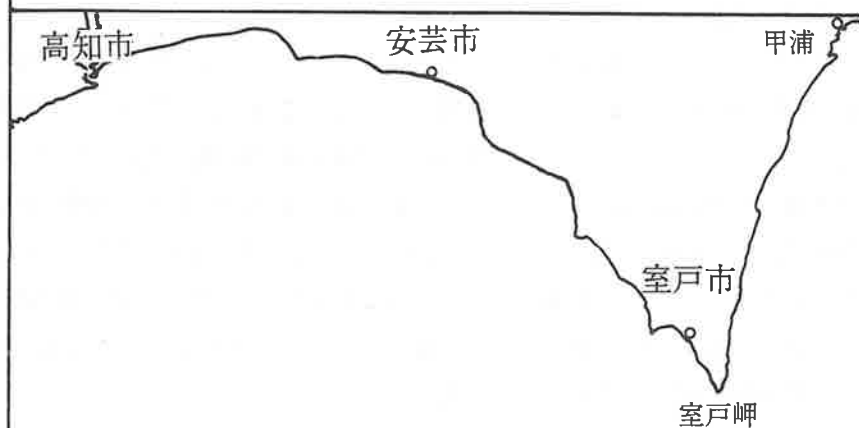
黒牧17号設置予定海域海底地形

平成11年4月 高知県水産試験場測量

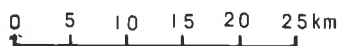
S = 1 : 50,000



備考: 測位にはDGPS受信機を使用した。



調査海域



S = 1 : 500,000

